

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(マレーシア)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業運営委員会 委員 菅哲男
接合科学研究所 客員教授

2015年度8ヶ国目のマレーシアCIS(カップリングインターンシップ)を、2月16日-28日の期間にマレーシア(クアラルンプール)で開催しました。大阪大学 外国語学部2名、工学研究科2名、マラヤ大学 工学研究科3名、工学部1名、計8名の学生が参加しました。現地で2日間の事前研修をマラヤ大学で行い、企業の経営理念やコミュニケーションの講義(講師:言語文化研究科の横江特任教授と藤原特任助教)、溶接基礎知識の教育(VTR)、CIS課題の実習を学生は受講しました。18日からの休日を除く5日間は、千代田マレーシア(CMSB)で企業実習を実施しました。実習としては、会社説明(組織、業務内容)、エンジニアリング機能の説明、安全講習、エンジニアリング実習(設計・調達・建設の演習)などを受けると共に、CISの実習テーマについてのCMSBの経営者やスタッフとのインタビュー

を行いました。また、2月22日-23日にはサブコンのスリ・タカダとペトロナス・リファイナリー(マラッカ)の石油精製プラントを見学しました。実習テーマ「リーダーシップやコミュニケーションの課題と対策」について、学生は真剣に取り組みました。最終日の26日にはマラヤ大学で、学生は実習テーマの検討結果を報告しました。最終報告会には、CMSBのShaiful社長、マラヤ大学のNoor 工学部長、阪大の菅客員教授、藤原特任助教ら計15名の参加があり、活発な質疑応答がありました。企業からは、「CISは学生に大変有益であり、優れた教育方法である」とのコメントもいただきました。学生は、今回のCISを通して「日系・現地エンジニアリング企業の現場」を体験すると共に、異文化・多言語下でのコミュニケーションや相互理解の重要性などを学んでおり、大変意義のある活動でした。

